

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400273
法人名	有限会社 エル・シーエヌ
事業所名	グループホーム久万いこいの郷
所在地	愛媛県久万高原町入野1726番地5
自己評価作成日	平成28年8月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

久万高原町の豊かな自然の中で季節を感じながら皆様生き生きと生活されております。男性3名・女性6名の入居者の方がいらっしゃいます。入居者同士が悩みを打ち明けアドバイスするような場面もうかがえます。スタッフとも遠慮なくなんでも言える関係です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2年ほど前から「不適切ケアチェック表」を導入し、項目の意味を理解しながら初めの1年間は毎月、その後は随時自己チェックを行っている。毎回集計して結果の推移がわかるような仕組みをつくっている。調査訪問時、職員が笑顔で丁寧に対応している様子が見られた。
 運営推進会議時に、「頑固に入浴を拒む方の対応」等、事業所の課題を具体的に出して話し合っており、町や地域包括支援センターの担当者から意見やアドバイスをもらっている。
 入院中、本人から事業所に戻りたいと強い希望があり、退院して事業所で看取り支援を行った事例がある。居室では、本人が好きな黒田節や歌謡曲を流し、職員は度々居室を訪問して、声かけとスキンシップを大切に支援した。かかりつけ医のアドバイスのもと、家族や訪問看護師等と方針を共有し支援した。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 久万いこいの郷

(ユニット名) グリ

記入者(管理者)

氏名 丸山・峯本

評価完了日 平成28年 8月 6日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) いつも笑顔・行動はゆっくり・一緒に楽しくの理念を玄関及びリビングのいつも目に入る空間に掲示し常に意識し手下ります。	
			(外部評価) 開設時に作成した理念を、玄関や各ユニットに掲示している。月1回のミーティング時等に、日々のケアを振り返りながら理念について話し合う機会をもっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) アラマ地区の一員としての活動や季節の行事への参加や協力にて地域の方との交流を図っております。	
			(外部評価) 年1回ある地域のクリーンデイに職員が参加して、地域の方と一緒に清掃活動を行っている。事業所主催の夕涼み会は、近隣の方にもポスティングして案内し、金魚すくい大会等と一緒に楽しんだ。林業祭りには、利用者の作品を出展して当日も参加した。秋祭りには、神輿や獅子舞の訪問がある。今春、オカリナ演奏と手芸教室のボランティアを受け入れ、手芸教室の方がその後も定期的に来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、地域の民政委員さんや自治会長さんに参加を促しホームの活動や実態を報告し認知症の方の理解や支援の方法を少しでもアドバイスできるように取り組んでいます。	地域行事への積極的な参加に取り組み、地域との相互理解や協力関係づくりに努めてほしい。災害時等、いざという時に協力し合えるように、運営推進会議等を活用して話し合いをすすめてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回開催されており前月の状況報告や検討が必要な項目については、アドバイスを頂いています。定期的にホームに来てくださる相談員の方も参加され身近な意見を言ってくださりとても参考になっています。</p> <p>(外部評価) 会議には、民生委員や介護相談員、利用者や家族等が参加している。会議は、利用者や事業所の状況、行事等の報告を行い、毎回テーマに沿って報告して話し合っている。現在、家族の会議参加が限定的になっているが、一人でも多くの家族が会議に参加できるように取り組みを工夫してほしい。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護相談員さんの訪問や社協の方の訪問時は何でも気軽に相談が出来、アドバイスももらったり、また町の担当者の方も細やかに対応してくださり何でも気軽に相談が来ています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時に、「頑固に入浴を拒む方の対応」等、事業所の課題を具体的に出して話し合っており、町や地域包括支援センターの担当者から意見やアドバイスをもらっている。月1回、各ユニットに介護相談員の訪問がある。中学生の体験学習を受け入れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 基本施錠はしておりません。自宅と同じ考えですので夜間戸締りと考え玄関は施錠します。声掛けの仕方が以前に比べると思いやりのある声掛けになってきたと思います。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、玄関は開放しており、職員は、利用者を見守っていた。利用者は、居間の掃き出し窓からウッドデッキに出入りしており、畑仕事を日課にしている方は、気が向いた時に中庭の畑に出て作業等を行っている。ベッドからの立ち上がり時に転倒の危険がある方は、センサーを置いて足を降ろすと音が鳴るようにしている。職員は、「不適切なケアチェック表」でケア等を点検しており、項目の意味を知ることによって身体拘束をしないケアの必要性を理解することにつながっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待とは何かから考え理解し特に身体的な拘束虐待だけでなく、言葉で人を傷つけてしまうということを意識し取り組んでおります。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) グリ棟には成年後見制度を利用されている方はいませんが隣のユニットにいらっしゃり定期的に社協の方が訪問される機会を利用し学ぶ機会を持っています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の契約にはゆっくりと時間をかけ説明納得していただき同意をもらうことを心がけ、後にトラブルの無いよう細心の注意を払い対応しております。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月家族の方には状況報告を送信し介護の状況をお伝えしその機会に何でも気軽に要望や意見を言ってもらう体制をとっております。 (外部評価) 家族来訪時には、本人の様子を報告して意見や要望を聞いている。毎月、個々の担当者がケアプランに沿って日常の様子や健康状態等を記して報告している。ほぼ毎月「久万いこいの郷新聞」を発行しており、日常やイベントの様子を写真入りで紹介している。夕涼み会やクリスマス会には、家族にも案内して数名の参加がある。今後はさらに、家族と一緒に活動するような機会を作り、さらに事業所の取り組みを知ってもらいながら、具体的な意見や要望を引き出してほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月月末には全体会議を開催し、職員の意見が反映できる場を設けております。改革が必要な事柄や取り入れて欲しい事などは以前よりも真剣に取り組む姿勢が見えてきたと感じています。	
			(外部評価) 前回の外部評価調査後、職員アンケートを行い、職員個々に介護についての意識や意見等を聞いた。管理者は「職員の気持や意見を知り、話し合いもできて職員の定着率アップにつながった」と話していた。法人は、職員個々に年2回、外部研修に参加できるよう費用面の援助をしており、資格取得も後押ししてくれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員のチームワーク構築及びストレス改善の為、親睦回の開催。新職員も数名入り、気持ちよく仕事が続けられるようにこまめに声をかけ、何でも気軽に打ち明けられる体制をとっています。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 自らが学びたい研修を選び積極的に参加し、学んできたことを会議にて報告し、情報の共有に努めています。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域ケア会議に参加し意見交換をする中でどの事業所からも交流の場が持ちたいという思いが強く、それは町の担当者にもその声が届いており検討してもらっております。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談である程度の情報は把握していても実際に生活が始まると見えてくることもあるのであせらずゆっくりとかかわる事に努めています。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談でとにかくありのままを伝えていただき、出来ること出来ないことをお互いにしっかり確認。入居後はいつでも自由にホームに来ていただけるような関係が出来ていると思います。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の生活スタイルやこだわりが出来るならば途切れないように可能なことは継続しております。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護をしているという目線ではなく認知症あるうが人生の先輩という気持ちは常に持つことで、学ばせてもらうことが多いと感じています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的な面会に来てくださる方も多くいます。気兼ねなく会話が出来る関係になっております。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 一部の方になりますが、以前住んでいた地区に出かけたり昔からの友達と会ったりしている方もいらっしゃいます。 (外部評価) 「お墓参りに行きたい」等の利用者の気持ちを家族に伝え、実現できるよう取り組んでおり、家族と一緒に出かけるケースや職員が付き添うケースがある。ロールスクリーンを設置して、利用者に懐かしい映画の上映会を定期的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 現在男性が3名と女性が6名です。最近入られた方はまだ居室内の対応ですが、それ以外の方はリビングで同じテーブルの方などは和気あいあいでも雰囲気がいいと感じます。入居者同士でアドバイスや励ましの場面も良く見受けられます。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去の形は様々で入院の方、他施設に行かれた方、在宅復帰された方など、その後どうされているかと尋ねることもしており縁が切れることはありません。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 何気ない会話の中に思いを伝えられているケースが多く、出来ることはプランにあげたりスタッフに申し送るなどして少しでも自分らしく生活が出来るよう取り組んでおります。 (外部評価)	
			入居時に把握した生活歴や希望・意向、ADL等は「基本情報」に記録しており、随時書き足しながら介護保険の更新時に全体を見直している。日々の個別記録に、本人の何気ない仕草から汲み取った職員の気付きの記録があった。	職員一人ひとりが利用者の言葉や表情、仕草等から希望や思いの把握に努め、又、言葉等の背景を汲み取り、得た情報は介護計画に反映して行ってほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の暮らしぶりはとても重要であり継続して出来ること・今後必要なこと・本人が強く希望していることなど情報の収集をしっかりと行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 担当スタッフを中心に一人一人の能力や心身の状態に応じた生活スタイルの把握に努めており、しっかりと情報の共有に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			ケアプランは3ヶ月に1回は見直す形で目標を掲げ実施内容を具体化し取り組んでおります。本人の意向はもちろん家族の希望や要望も取り入れ実践しております。	
			(外部評価)	
			家族の「口腔ケアをしっかりとしてほしい」という希望を採り入れた計画がみられた。日々の個別記録に、介護計画の実施状況を毎日記入して職員で共有している。月1回、個々の担当職員が実施状況をまとめ、ケアマネジャーが評価を行い家族に送付している。計画は本人の「できること」を中心にした作成を心がけているが、さらに、「できそうなこと」もアセスメントして計画に反映してはどうだろうか。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別のケース記録には実際に行った内容を記録し誰もが情報の共有が出来同じ目標に向かって取り組めるよう実践しておりますが、まだまだ記録内容が具体的とはいえません。実際に行ってみて変更が必要なケースもありその場合は見直しを行い取り組んでおります。	
			(外部評価)	
			現在取り組んでいる内容では不足しているケースもあり、状況によっては必要なサービスを追加したり柔軟意対応しております。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			現在取り組んでいる内容では不足しているケースもあり、状況によっては必要なサービスを追加したり柔軟意対応しております。	
			(外部評価)	
			理美容サービスの利用や地域のボランティアの方の訪問によるレク活動・介護相談員の方とのふれあいなど地域資源の活用によって、入居者の方もスタッフだけでなく外部の方とのふれあいが持つ充実が図れるようになりました。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			理美容サービスの利用や地域のボランティアの方の訪問によるレク活動・介護相談員の方とのふれあいなど地域資源の活用によって、入居者の方もスタッフだけでなく外部の方とのふれあいが持つ充実が図れるようになりました。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 現在3つの医療機関がかかりつけ医となっており、入居前からの関係が継続されております。そのため家族も入居者も又スタッフも安心しております。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医に診てもらえるよう支援しており、個々に月1回の往診がある。専門医の受診は、職員が同行している。安定剤等の内服時は、日中の様子等について、かかりつけ医に報告、相談しながら総合的な支援に取り組み、減薬や短期間の内服に留める支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 常時看護職は持ちませんが、週に1回は定期的に出勤し健康チェックや、バイタルの確認またスタッフの質問や相談にアドバイスをくれ又ドクターへの橋渡しをしてくれております。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) かかりつけ医の指示を仰ぎ入院に至るケースがほとんどであり町内の場合はこまめに病院に出向き状況の報告を受け今後の対応など細かく指示をもらっております。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 今年になり実際に看取りケアを行いました。家族が県外にいる関係で電話でのやり取りや帰省時には話し合いを持ち本人の強い意向に沿って最後をホームで送ることが出来ました。	
			(外部評価) 入院中、本人から事業所に戻りたいと強い希望があり、退院して事業所で看取り支援を行った事例がある。居室では、本人が好きな黒田節や歌謡曲を流し、職員は度々居室を訪問して、声かけとスキンシップを大切に支援した。かかりつけ医のアドバイスのもと、家族や訪問看護師等と方針を共有し支援した。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 過去には服薬ミスの事故がありマニュアルの見直し及び服薬介助の徹底し、現在大きな事故には至っていません。実際に事故が起こり始めて気がつくこともあり、情報の共有に努めています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防の立会いのもと避難訓練を中心に行っておりますが、地震に備えた訓練はまだ行っておらず、今後は必要と思っています。	
			(外部評価) 今年3月に消防署の協力を得て、夜間の火災を想定した避難訓練を行った。地震対策のために食器棚には突っ張り棒を付けている。運営推進会議時に、災害時の避難や対応について話し合っており、事業所を災害時の一時的な避難場所にできることも伝えている。法人代表者は、熊本地震直後に炊き出しと瓦礫撤去のボランティアに10日間参加して、懐中電灯やヘルメットその他備蓄の必要性を実感した。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 不適切ケアチェックを開始したころは意味の捉え方も様々でありあまり深く考えていなかったが、だんだんと言葉の掛け方や認知症を理解し一人一人に合った声の掛け方や対応が出来ル様になりました。	
			(外部評価) 2年ほど前から「不適切ケアチェック表」を導入し、項目の意味を理解しながら初めの1年間は毎月、その後は随時自己チェックを行っている。毎回集計して結果の推移がわかるような仕組みをつくっている。調査訪問時、職員が笑顔で丁寧に対応している様子が見られた。さらに今後は、利用者一人ひとりの楽しみごとや得意なこと、出番を作る等の支援に取り組んでほしい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人に合った接し方を心がけ、スタッフがゆっくりとそばで見守ったり、何気なく口に出す言葉の中にも思いがあることを察知し対応しております。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 9名それぞれに合った一日の過ごし方を尊重することを基本に、そのため入浴にしても希望の時間を取り入れたり、部屋で食事がしたいときはそのように配慮したりと対応に心がけております。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) グリは女性が6名、認知が進み以前は身だしなみにもこだわりのあった方がスタッフ任せとなっているケースもありますが以前を思い出していただけるよう接したりもしております。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事前のテーブル拭きや下膳を手伝ってくださる方が何名かいます。野菜作りを熱心にされてる方はその日に使ったいい食材を畑に摂りに行ってくださり、それが食卓に上がった時などはやはり話も弾みます。 (外部評価) 今春から調理専門の職員を配置しており、買い物と昼・夕食の調理を担当している。献立は、利用者の希望を採り入れながら担当職員が立てている。調査訪問日は、利用者が育てたピーマンやトマト、茄子を使ったメニューが話題になっていた。食後、下膳や食器洗い、食器拭き等を行う利用者の様子が見られた。ホットプレートを使ってお好み焼きを一緒に作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者ごとに毎回水分・食事量はチェックし状態に応じた対応を心がけています。好き嫌いをしっかり把握し食事が楽しいものになるよう心がけています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々に応じた口腔ケアを行い、口腔内環境の把握・また義歯の噛み合わせなどチェックしすばやく対応するように心がけています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>ベッド上で介助している方はいません。ほとんど日中はトイレ誘導や見守りにて対応しております。同姓介助で無いといけない方もいच्छりプライバシーや人権尊重の立場から本人の意向に沿った対応をしております。</p> <p>(外部評価)</p> <p>カンファレンス時に、個々の紙パンツやパッド使用の必要性や適切性について話し合い、一人ひとりのその時々状態に合った支援に取り組んでいる。日中はほとんどの方がトイレで排泄できるよう支援している。男性用便器を備えており、使用している方がいる。職員2名で介助する場合、広さの制限があり、トイレのドアが閉められないようだが、プライバシーの観点から配慮できることはないか話し合ってみてほしい。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排泄状況を記録し状況に応じて、排泄が促せる飲み物の提供や水分量の工夫・腹部のマッサージなど行い、それでも困難なときは下剤を投与するといった方法で取り組んでいます。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>午前・午後・夜間とそれぞれの生活習慣やまた体調に応じて時間を工夫し入浴を楽しんでもらっております。</p> <p>(外部評価)</p> <p>個々に週2~3回の入浴を基本に支援している。自立度が高く一人で入りたい利用者は、毎日の入浴や夜間入浴等の希望にも応じており、職員はそれとなく見守っている。浴槽のまたぎが難しい方は、シャワー浴で支援している。浴室も床暖房にして寒さ対策をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>一応に就寝時間は決まっておりますが、消灯後は部屋でテレビを観たりしている方もいच्छり、しばらく観ることで安眠につながっている方もいます。また必ず何時間かは日中横になりたい方もいますので見守っております。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方箋は必ずいつでもスタッフが細かく確認できるところに置き、特に安定剤や眠剤などは状態の変化にすばやく気づきかかりつけ医に連絡し・調整などお願いしております。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 自分の趣味を活用し野菜作りに生きがいを持っている方や、特に何かをするわけではないけれど、居場所のある生活を楽しんでいる方・スタッフが働きかけることによって楽しみを見つけている方と様々です。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 実際に外出を楽しまれている方は数名になっています。実際家族の面会が多いですが家族が外出支援とまでは言ってません。	
			(外部評価) 菜園で野菜作りをしている方には、職員が種や苗、道具類の買い物に付き添っている。「ラーメンを食べたい」「喫茶店に行きたい」と希望があれば、職員が付き添い支援している。又、友人が連れ出してくれて外出を楽しむ方もいる。計画を立てて花見やぶどう狩り、紅葉狩り等に出かけている。	希望を表現できない利用者や遠慮がちな方も、家族から情報を得たり、趣味や何気ない普段の会話等から行ってみたい所や懐かしい場所等を探り、支援につなげてはどうだろうか。又、日々の中で、庭に出たり、ちょっと散歩したりして気分転換を図るような支援に工夫してほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 実際に自分がお金を持って買い物に出かけられる方はわずかしきありません。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 県外に住む家族に手紙を書いていた方が1名、時々電話をして欲しいとの要望で家族にかける方が1名います。一部に方に限られているのが現状です。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) レク活動をするようになってからスタッフと共にレイアウト用の飾り付けを楽しんでおります。季節感のあふれた作品をみんなで心がけております。特に空間作りで気をつけているのは臭いです。いつもいると臭いに鈍感になりがちなので常に意識しております。</p> <p>(外部評価) キッチンのカウンターには、ススキやコスモス等の季節の花が飾られていた。調査訪問時、2名の方がウッドデッキの椅子に腰掛けて過ごしていた。ウッドデッキには、ゴーヤでグリーンカーテンを作り、日々草等が咲くプランターを並べている。リビングの壁面には、習字や塗り絵、貼り絵等、利用者の作品や共同作品を飾っている。日めくりカレンダーは、利用者がめくっている。リビングで毎日テレビ体操を行い、手足を動かしている。全館床暖房になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居者のかたそれぞれにお気に入りの場所があるようです。そこで過ごしている時はコミュニケーションを図るとても良い機会になっています。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自宅で生活していた時の物を持参し、その方らしく生活されております。入居前の生活が伺えるようです。</p> <p>(外部評価) 各居室の入り口には、本人手作りのかまぼこ板の絵や小物の作品を飾っている。自宅から大き目のテレビを持ち込んでいる居室や家族や孫の写真を飾ったり、位牌が置いてある居室もある。各居室に温度計を設置しており、職員が温度管理を行っている。事業所が準備したカレンダーを掛け、時計は個々に持ち込んでいる。本人の希望で畳を敷き、布団で休む方もある。窓を開けて換気を行っていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) ホーム内は安全に移動が出来、またゆったりとした空間になっております。広い庭とベランダは気分転換が出来る空間になっています。</p>	